

I、本園の教育目標

「いつもにこにこ元気な子ども」

- 1、健康でたくましい子どもに
- 2、だれとでも仲よくできる子どもに
- 3、しっかりと約束の守れる子どもに
- 4、あいさつのできる子どもに
- 5、自分で考えて行動のとれる子どもに

II、本年度の指導の重点

- 1、様々な人や自然との触れ合いを通して、豊かな心と体を育てる
- 2、様々な物事に興味、関心を示し、知的好奇心や思考力、感動する心などを育てる

III、自己評価の状況

◎目標を上回る ○目標に達する △目標に届かない

	評価項目	評価	取り組み状況
1	幼稚園の運営について	○	教員一人ひとりが教育理念や教育方針を理解し、それに伴い教育課程が編成できている。また防災、不審者対策を行う体制も整えられている しかし幼児の活動がより豊かになるように幼児の発想を柔軟に取り入れ、活動の展開に応じて環境の再構成をすることが弱い
2	保育の在り方、幼児への対応	○	のびのびと体を動かしており、教職員が幼児との温かなやりとりやスキンシップを心掛け、“一人ひとり”と“みんな”の関係を考えクラス集団をまとめている。しかし子どもへの禁止、命令、行動を急がせたりすることがまだ多く見られるため、子ども主体の保育の在り方を考えなければならない
3	保育者としての資質・良識・適性	◎	挨拶は明るく親しみを込め行い、感謝の気持ちを言葉などで表せ、保護者に対しても信頼関係を保つことが出来ているが、社会情勢など教育、保育に関する情報収集が弱い
4	保護者への対応・守秘義務	◎	園での様子、トラブル、怪我など保護者に面談や電話等で連絡し、きめ細やかな対応を行っている
5	地域の自然や社会とのかかわり	○	保育内容が小学校以降の生活や学習の育成につながる事を理解している。今年度はコロナ感染拡大の為小学校、施設訪問を行う事は出来なかった。
6	保育者の専門性に関する研究・研究への意欲・態度	○	研修で学んだことを保育に取り入れているが、積極的に研修に参加することができていない
7	地域における子育て支援	○	新型コロナウイルス感染対策を行ないながら園庭開放を行っているが、利用者数が少なく、子育て世代へのアピールが低い

#### IV、保護者評価の状況

結果	項目	内容
○	保育の効果について	喜んで通園し友達と一緒に過ごす楽しさの中で、自分の思いを相手に伝えることができるようになり、友達を認め受け入れられるようになったこと、今までできなかったことに自分から積極的に取り組むようになり自信が持てるようになった。 また、自分から挨拶ができるようになり、決まり事を守って行動することができようになったことに成長を感じることが出来たと評価できる
	教育の内容について	バランスの良い給食を頂いていることで、好き嫌いも減り、体力もつき、なおかつ正しい箸の持ち方も意識するようになった
	保護者への対応・支援について	子ども達の様子を面談や手紙、電話等で伝えていることで、保護者には安心し信頼を得ているが保護者同士のコミュニケーションをはかる機会が少ない

#### V、総合的な評価結果

評価	理由
B	新型コロナウイルスが猛威を振るう中で、多くの行事が行う事ができなく、行事を見直す機会でもある中で、教員一人ひとりがそれぞれの立場で指導の重点を意識し、保育を行なってきた。その中でも子ども達は自分の思いを伝え、相手の思いを受け入れ、徐々に相手を思う気持ちや相手を認める気持ちももてるようになってきた。また年下に優しくしたり、年上や友だちがしていることを真似してみたり刺激し合う中で、不思議に思う気持ちや疑問に思ったことを聞いたり、教えあったり、調べたりし、自分から知ろうとする知的好奇心、思考力も育ってきた。

A・十分に成果があった B・成果があった C・少し成果があった D・成果がなかった

#### VI、今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	・幼児の姿を保護者へ伝える手段を考え、見える化を強化する	・HP等で毎日更新し、子どもたちの様子を伝えているが写真の掲示や動画配信、行事で来園の際にビデオ上演等を行ない、保護者へ子ども達の様子を伝える
2	・保護者同士、地域の子育て世代の方々へ向けた、子育てパートナーの役割を果たす	・子育ての悩みや相談等気軽に話しあえる場の提供や専門講師への依頼をし、講座開催を実践する

#### VII、学校関係者評価委員の評価

・新型コロナウイルス感染予防対策を安心、安全に行う中で、指導の重点をしっかりと行っていることをわかり保育を任せることが出来る学園として高く評価する